横浜旭中央総合病院
内科専門研修プログラム

- 2026 年度版 -

IMS〈イムス〉グループ　医療法人社団 明芳会
横浜旭中央総合病院
内科専門研修プログラム管理委員会

2026 年 4 月

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

内容

1.理念【整備基準 1】 .....
2.使命【整備基準 2】 .....
3.研修目標【整備基準 3、7】 .....
4.専門研修後の成果【整備基準 3】 .....
5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】 .....
6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】 .....
7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 .....
8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 .....
9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】 .....
10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】 .....
11.内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】 .....
12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】 .....
13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】 .....
（「横浜旭中央総合病院内科専門研修管理員会」参照） .....
14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】 .....
15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】 .....
16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 .....
17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 9
18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】 .....
横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群研修施設.....
専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】 .....
専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】 .....
1)専門研修基幹施設.....
2)専門研修連携施設.....
横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会.....

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

横浜旭中央総合病院　内科専門研修プログラム

1. 理念【整備基準 1】

本プログラムは、「愛し愛される病院」という病院理念のもと、将来専門とする領域（Subspeciality）にかかわらず、内科学の幅広い知識・技能を修得し、医の倫理・医療安全に配慮した患者中心の医療を実践する内科医を育成するものである。当プログラムを履修することにより、内科専門医に必要な内科領域全般の標準的な臨床能力のみならずプロフェッショナリズムとリサーチマインドを修得し、研修修了後も生涯にわたり自己研鑽を積んでいけるものと期待する。

2.使命【整備基準 2】

神奈川県横浜西部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、高い倫理観を持ち、最新の標準的医療を実践し、安全な医療を心がけ、プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行う。将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行う。

特性

1) 本プログラムは、神奈川県横浜西部医療圏の中心的な急性期病院である横浜旭中央総合病院を基幹施設として、神奈川県横浜西部医療圏、近隣医療圏および東京都・千葉県にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間である。
2) 本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で、経時的に診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。
そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とする。
3) 当院は、神奈川県横浜西部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所などとの病診連携も経験できる。
4) 当院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、研修手帳（疾患群項目表）に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録する。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できる。
5) 専門研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するため、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことにより、内科専門医に求められる役割を経験する。
6) 当院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、研修手帳（疾患群項目表）に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録する。
可能な限り、研修手帳（疾患群項目表）に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とする。

3.研修目標【整備基準 3、7】

地域医療が抱える様々な問題を理解し、全人的医療を実践するため、地域中核病院で高度な急性期医療と地域の病診・病病連携の中核としての役割を経験する。また、地域第一線の診療所や小病院で在宅診療を経験し、地域包括ケアシステムについて学習する。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

4.専門研修後の成果【整備基準 3】

本施設群での研修修了後は、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General mind を持ち、先に述べた内科専門医が果たすべき役割を兼ね備え、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも内科診療にあたる実力を獲得している。したがって、本プログラムの施設群で引き続き Subspeciality 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始することも可能であるが、日本のいずれの地域いずれの医療機関での内科診療や Subspeciality 領域専門医の研修を行うことが可能である。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

下記の各種研修会に対し専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

① 当院での内科合同カンファレンスは、月～土曜、毎朝 8:30 から行われている。
② 地域参加型のカンファレンス（旭区医師会等）は定期的に開催されている。
③ 医療安全、感染防御に関する講習会は年 2 回開催しており、医療倫理に関する講習会は年 1 回開催している。
④ ＣＰＣは定期的に年間 1 回程度開催している。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。

本施設施設群のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）。
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養する。併せて、

⑥ 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
⑦ 後輩専攻医の指導を行う。
⑧ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行う。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う。
④ 内科学に通じる基礎研究を行う。

①～④を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行う。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨する。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力である。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性である。

横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与える。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である横浜旭中央総合病院臨床研修委員会（仮称）が把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける。

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県県横浜西部医療圏、近隣医療圏および東京都・千葉県内の医療機関から構成されている。

横浜旭中央総合病院は、神奈川県横浜西部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である昭和医科大学横浜市北部病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、地域基幹病院である板橋中央総合病院、新松戸中央総合病院、および地域医療密着型病院である明理会中央総合病院、東戸塚記念病院で構成している。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。地域基幹病院では、横浜旭中央総合病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。

横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群は、神奈川県横浜西部医療圏、近隣医療圏および東京都・千葉県内の医療機関から構成している。最も距離が離れている新松戸中央総合病院は千葉県内にあるが、横浜旭中央総合病院から電車を利用して、2 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低い。

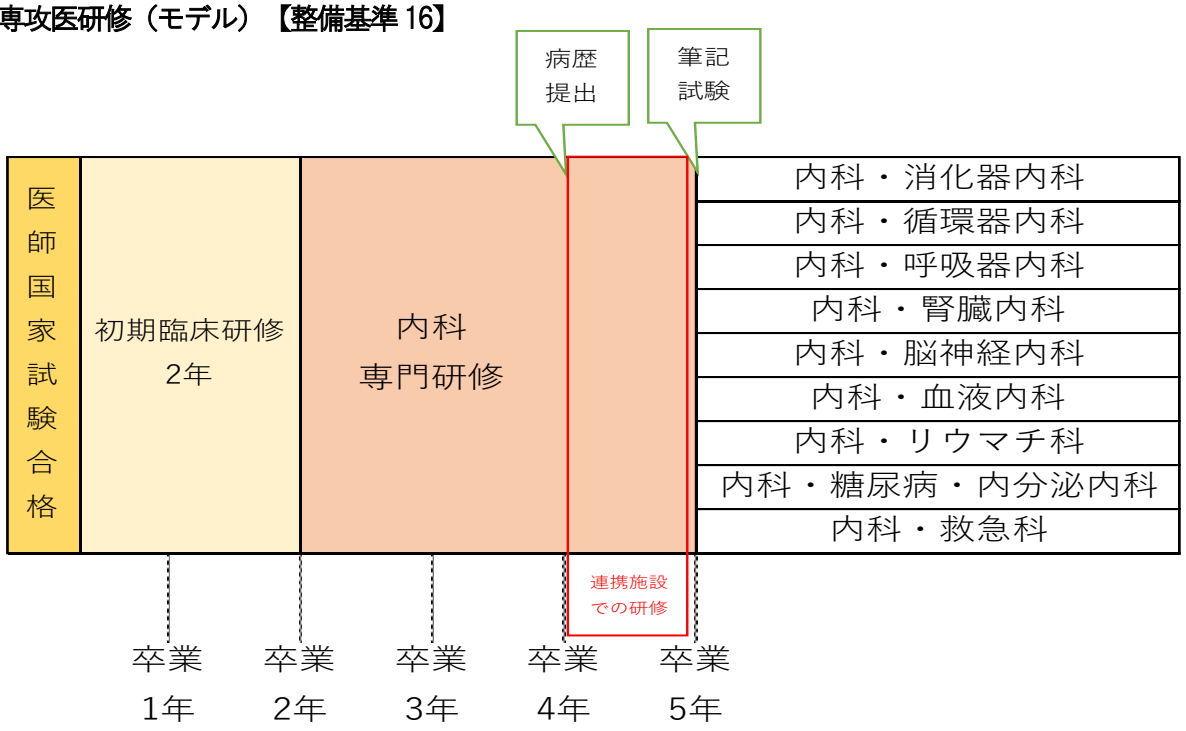
10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

横浜旭中央総合病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。

横浜旭中央総合病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

11.内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】



基幹施設である横浜旭中央総合病院で、専門研修（専攻医）1 年目、2 年目に 2 年間の専門研修を行う。

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定する。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間、連携施設で研修する。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能。（個々人により異なる）

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

（1）内科専門研修プログラム管理委員会の役割

・内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行う。
・横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。
・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。
・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促す。
・委員会は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行う。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、コメディカルスタッフ、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、事務局もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録する。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行う。
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応する。

（2）専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が委員会により決定される。
・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認する。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行う。
・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにする。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにする。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認する。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修委員会（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、担当医の割り振りを調整する。
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。
・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録する。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要がある。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形成的に深化させる。

（3）評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに横浜旭中央総合病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認する。

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認する。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする。その研修内容を J-OSLER に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録済み（P.43 別表 1「横浜旭中央総合病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
ⅲ）所定の 2 編の学会発表または論文発表

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

iv）JMECC 受講
v）プログラムで定める講習会受講
vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2）横浜旭中央総合病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に横浜旭中央総合病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用いる。なお、「横浜旭中央総合病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「横浜旭中央総合病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示す。

13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】
（「横浜旭中央総合病院内科専門研修管理員会」参照）

1）横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
i）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる。横浜旭中央総合病院内科専門研修管理委員会の事務局を、内科専門研修プログラム管理委員会におく。
ii）横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有する。

① 前年度の診療実績
a） 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)1 か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数
② 専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数
③ 前年度の学術活動
a） 学会発表、b)論文発表
④ 施設状況
a） 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催
⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本腎臓病学会専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医、日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本感染症学会専門医、日本救急医学会救急科専門医等

14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用する。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いる。

15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とする。

専門研修（専攻医）1 年目、2 年目は基幹施設である横浜旭中央総合病院の就業環境に、専門研修（専攻医）3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業する。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

基幹施設である横浜旭中央総合病院の整備状況

・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・横浜旭中央総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。
・ハラスメント委員会が整備されている。
・敷地近傍に院内保育所があり、利用可能。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「横浜旭中央総合病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図る。

16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は年に複数回行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧する。また集計結果に基づき、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

2） 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムを評価する。
・担当指導医、各施設の内科研修委員会、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

3） 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

各施設の内科研修委員会と横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会は、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。その評価を基に、必要に応じて横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムの改良を行う。

横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年７月から website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、期日までに横浜旭中央総合病院の website の横浜旭中央総合病院医師募集要項（横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募する。書類選考および面接を行い、横浜旭中央総合病

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。
(問い合わせ先)横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会
HP: http://www.ims-yokohama-asahi.jp/
横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行う。

18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様である。

他の領域から横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 4 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって、研修実績に加算する。留学期間は、原則として研修期間として認めない。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群研修施設

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

	病院	病床数	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
基幹施設	横浜旭中央総合病院	515	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	○	△	○
連携施設	昭和医科大学横浜市北部病院	689	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携施設	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	518	×	×	×	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○
連携施設	板橋中央総合病院	569	△	○	○	×	△	△	○	×	○	△	△	△	△
連携施設	新松戸中央総合病院	342	△	○	○	×	△	△	○	×	○	△	△	△	△
連携施設	明理会中央総合病院	312	×	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	○
連携施設	東戸塚記念病院	304	×	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○

＜○：研修できる、△：時に研修できる、×：ほとんど研修できない＞

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。横浜旭中央総合病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県および東京都・千葉県内の医療機関から構成されている。

横浜旭中央総合病院は、神奈川県横浜西部医療圏の中心的な急性期病院である。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である昭和医科大学横浜市北部病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、地域基幹病院である板橋中央総合病院、新松戸中央総合病院、および地域医療密着型病院である明理会中央総合病院、東戸塚記念病院で構成している。高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。地域基幹病院では、横浜旭中央総合病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定する。
- 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修する。（図 1）
  なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能。（個々人により異なる）

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神奈川県横浜西部医療圏と近隣医療圏にある施設から構成している。最も距離が離れている新松戸中央総合病院は千葉県にあるが、横浜旭中央総合病院から電車を利用して、2 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低い。

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

1)専門研修基幹施設

横浜旭中央総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ·横浜旭中央総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。 ·ハラスメント委員会が横浜旭中央総合病院に整備されている。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ·病院近傍に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 16 名在籍している（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	保坂　宗右
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本透析医学会指導医 1 名、日本神経学会指導医 3 名、日本肝臓学会認定指導医 1 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、日本消化器病指導医 3 名、日本消化器病学会消化器内視鏡専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　16,892 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　409 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，58 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設　など

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

2)専門研修連携施設

1. 昭和医科大学横浜市北部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ·労務環境が保障されている。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ·休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	緒方　浩顕
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域，59 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会　認定施設 日本呼吸器内視鏡学会　認定施設 日本アレルギー学会　認定教育施設 日本アフェレシス学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　専門医制度指導施設 日本心血管インターベンション治療学会　研修修施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本神経学会　専門医制度准教育施設 日本腎臓学会　研修施設 日本透析医学会　専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会　研修施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会　専門医制度認定施設 日本病態栄養学会　認定栄養管理・NST 実施施設 日本消化器病　認定施設など 日本高血圧学会認定施設

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

2. 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ·学校法人非常勤医師として労務環境が保障されている。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）がある。 ·監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されている。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・専門研修に必要な剖検を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催している。
指導責任者	松本　伸行
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域、59 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定専門医認定制度研修教育病院 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育研修施設 日本透析療法学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 など

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

3.板橋中央総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境を整備している。 ・新松戸中央総合病院常勤医師としての労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに関しては総務課にて適切に対処する。 ・ハラスメント委員会が横浜旭中央総合病院に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・病院近隣に院内保育所が整備されており、利用することができる。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等の内科系学会に年間で計 10 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	友田　義崇
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本不整脈学会・心電学会認定　不整脈専門医研修施設 日本心血管ｲﾝﾀﾍﾞｰｼｮﾝ治療学会認定研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会・ＮＳＴ稼動施設 日本栄養療法推進協議会・ＮＳＴ稼動施設 日本感染症学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 ほか

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

4. 新松戸中央総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·新松戸中央総合病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院近傍に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催），医療安全 2 回（各複数回開催），感染対策 2 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（開催方法調整中）に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2024 年度実績　病診連携症例検討会 1 回　救急搬送症例検討会 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECC（2024 年度実績 1 回）を自院開催し、専門研修期間中で受講が出来るよう調整を図ります.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，呼吸器，感染症，消化器，アレルギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（年複数回開催）しています.
指導責任者	安部 宏（副院長・研修管理責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 　新松戸中央総合病院は，千葉県東葛北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏・グループ病院とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成に取り組んでいます. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会指導医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 5 名， 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名，日本血液学会血液指導医 4 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本肝臓学会指導医 2 名，日本糖尿病学会研修指導医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）指導医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 248,072 名　入院患者 8,326 名　（2024 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域，39 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．特に循環器および呼吸器領域においては，より高度な専門技術も習得することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・病院連携などを経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門研修基幹施設　日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設　日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設　日本糖尿病学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設　日本感染症学会研修施設 日本肝臓学会認定施設　日本消化管学会胃腸科指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本アフェレシス学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設　など

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

5. 明理会中央総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度協力型研修指定病院。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ·明理会中央総合病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。 ·ハラスメント委員会が整備されている。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ·病院近傍に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 12 領域、56 疾患群の症例で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	河村　千春
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、56 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会血液研修施設 日本内科学会認定医制度教育関連施設 など

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

6. 東戸塚記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ·東戸塚記念病院常勤医師として労務環境が保障されている。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある。 ·ハラスメント委員会が整備されている。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ·病院近傍に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 12 領域，57 疾患群の症例で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	小倉　祥之
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，57 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　　日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設　　など 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設

Copyright(C) YOKOHAMAASAHI CHUO GENERAL HOSPITAL. All Right Reserved

横浜旭中央総合病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和 8 年 4 月現在）

横浜旭中央総合病院

保坂　宗右（副院長、プログラム統括責任者、事務局責任者、神経内科分野責任者）
片山　直之（循環器分野責任者）
小田井　剛（膠原病・リウマチ分野責任者）
木村　祐　（消化器内科分野責任者）
佐藤　航太（呼吸器内科分野責任者）
井上　めぐみ（事務局代表、臨床研修委員会事務担当）

連携施設担当委員

昭和医科大学横浜市北部病院	緒方　浩顕
聖マリアンナ医科大学横浜西部病院	松本　伸行
板橋中央総合病院	友田　義崇
新松戸中央総合病院	佐藤　栄一
明理会中央総合病院	河村　千春
東戸塚記念病院	小倉　祥之

オブザーバー

横浜旭中央総合病院	消化器内科	浅井　亮平
横浜旭中央総合病院	脳神経内科	足立　朋子
横浜旭中央総合病院	呼吸器内科	田中　望未
横浜旭中央総合病院	循環器内科	長間　大樹